

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第一小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・物語の場면을動作化したり、自分の考えを友達と共有したりする活動を通して、伝えたいことを明確にすることのできる児童が増えてきている。

・

(2) 課題

- ・基礎的な知識は身につけている一方、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたり、必要な情報を読み取ったりする力が弱い。

【単元内自由進度学習の取組】

- ・学習のゴールを示し、活動の流れや動線が分かるように教材を提示する。
- ・体験的な学習コーナーや、つまずきやすいポイントを解説した掲示等を示すなど、それぞれの児童のペースで自律的に学ぶことができる環境を設定する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

今年度の正答率が目標値に対し、+5ポイント以上の場合△、

+5ポイント未満－5ポイント以上の場合≡、－5ポイント未満の場合▼

	領域	令和7年度	令和6年度	令和5年度
第4学年	言葉の特徴や使い方に関する事項	≡		
	情報の扱いに関する事項	≡		
	我が国の言語文化に関する事項	≡		
	話すこと・聞くこと	≡		
	書くこと	≡		
	読むこと	≡		
第5学年	正答率	≡	↑	
	言葉の特徴や使い方に関する事項	△	≡	△
	情報の扱いに関する事項	▼	△	△
	我が国の言語文化に関する事項	▼	≡	△
	話すこと・聞くこと	△	△	△
	書くこと	▼	△	≡
	読むこと	≡	△	△
第6学年	正答率	↓	↑	↑
	言葉の特徴や使い方に関する事項	▼	△	△
	情報の扱いに関する事項	△	▼	≡
	我が国の言語文化に関する事項	▼	△	△
	話すこと・聞くこと	△	△	△
	書くこと	▼	△	△
	読むこと	△	≡	△

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度学習した漢字の正答率が落ちている。基礎的な知識(ローマ字表記の読みや、主語述語の関係などの設問)は概ね定着しているが、個人差がある。	説明文や物語の読み取りなど、平均以上の正答率だった。特に、物語文の読み取りに関する設問は平均より大幅に正答率が高かった。	自分で計画を立て、見通しをもって進めたり、計画を立て直したりすることが難しい児童がいる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度学習した漢字の正答率は高かった。一方で連体修飾語についての正答率が目標値より大きく下回っていた。	説明文や物語文の読み取りの設問については、平均か目標値を上回る正答率だった。一方で、自分の考えとそれを支える事例を関連付けて書いたり、相手や目的を意識して伝えたいことを明確にしたりするなど、書いて表現をする設問の正答率は目標値を大きく下回った。	塾等学校外での学習に取り組む児童が多いこともあり、基礎的な知識は身に付いている児童は多い。自分の考えを分かりやすく伝えたり、表現したりする能力については個人差が大きい。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙を増やすために、読書活動を推進したり、日常的に読んだり書いたりする活動を多く設定する。	対話的な活動や振り返りを通じて自分の考えや相手の考えをまとめる活動を多く取り入れる。	対話的な活動や自分の考えを分かりやすく伝えたりする活動を通して、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる力を高める。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語辞典や漢字辞典の使用頻度を増やして、紀州の感じなどに多く触れ、慣れさせる。タブレットのタイピングなどを活用しながら、ローマ字の使用頻度を増やす。図書コーナーにローマ字コーナーを作り、日常的に触れる機会を増やす。	交流活動を充実させ、友達のを考えをもとに、自分の考えを深めたり、広げたりする経験を増やす。	自由進度学習や振り返りの機会を活用して、自分がその学習をどのようなペースで進めていけるのか見通しをもたせる。あとどのくらいかかりそうか、時間内に終わるためにどうしたらよいのかなど考えさせ、自己調整力を伸ばす。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な文章構成である「初め・中・終わり」の型を示したり、構成メモを作成したりして、文章を書かせる。 積極的に辞書を活用し、漢字や言葉の意味、使い方を自分で正しく調べることができるようにする。	文章の構成を考えたり推敲したりする時間を取り、自分の文章を読み返したり、友達と文章を読み合ったりする機会を設ける。 「書くこと」の学習において、目的や相手を明確にした上で、文章を書くように指導する。	行事の後など日常的に文章に書くことに取り組ませ、自分の思いや考えを取り入れ、書くことに対する抵抗感をなくしていく。